
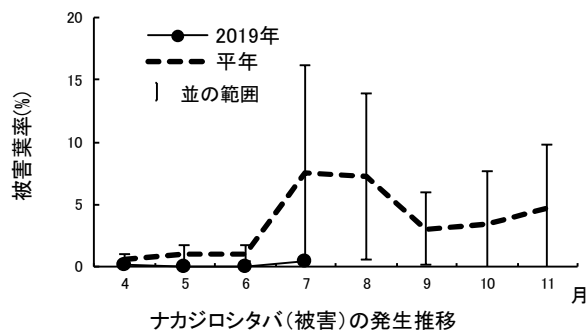
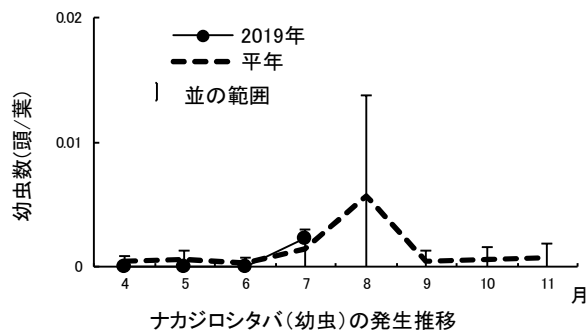



作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	① ナカジロシタバ		
予報	8 月の発生量 (例年比)	並	
	7 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	7 月の発生量 (例年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

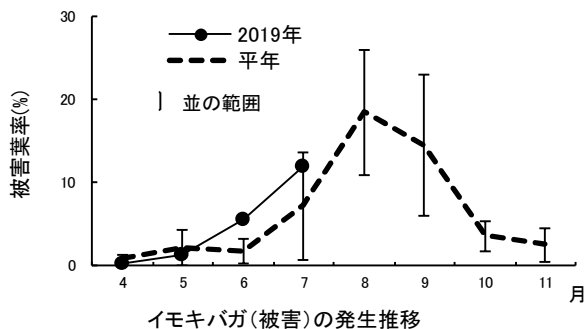
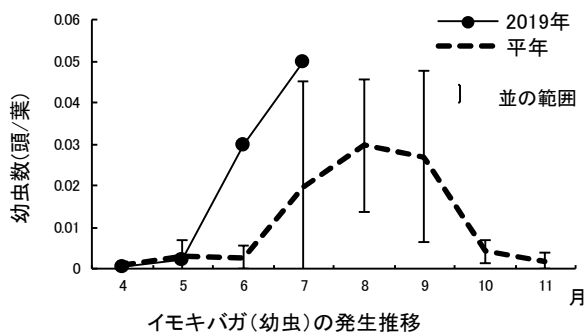


防除のポイント

- ・ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	② イモキバガ		
予報	8 月の発生量 (例年比)	やや多	
	7 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	7 月の発生量 (例年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果



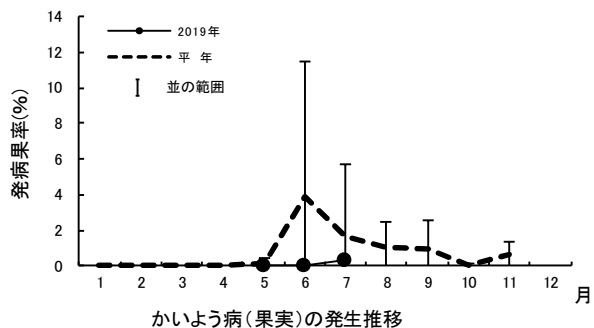
防除のポイント

- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。
- ・つづった葉の内部に潜っており、直接薬剤がかかりにくいいため浸透移行性のある薬剤を使用する。

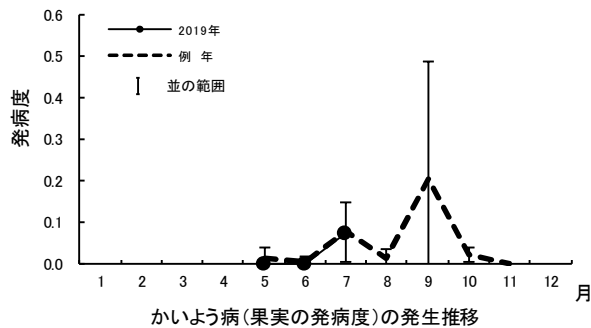
作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
予報	8 月の発生量（平年比）	並	
	7 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	7 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

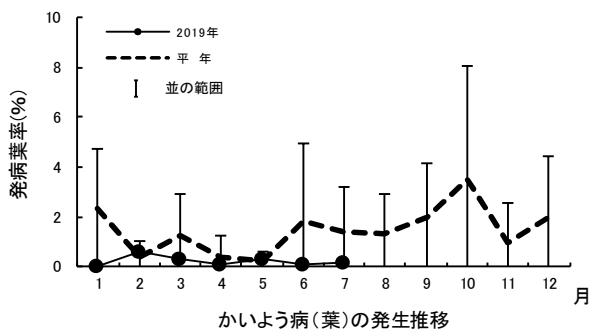
(発病果率)



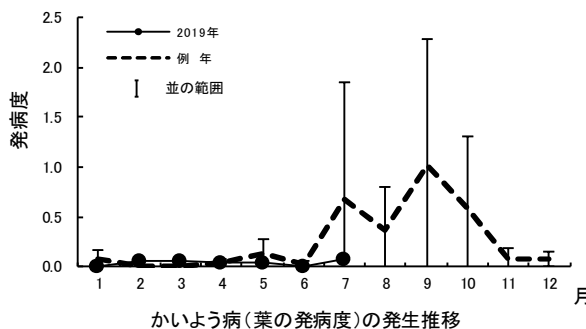
(果実の発病度)



(発病葉率)




(葉の発病度)

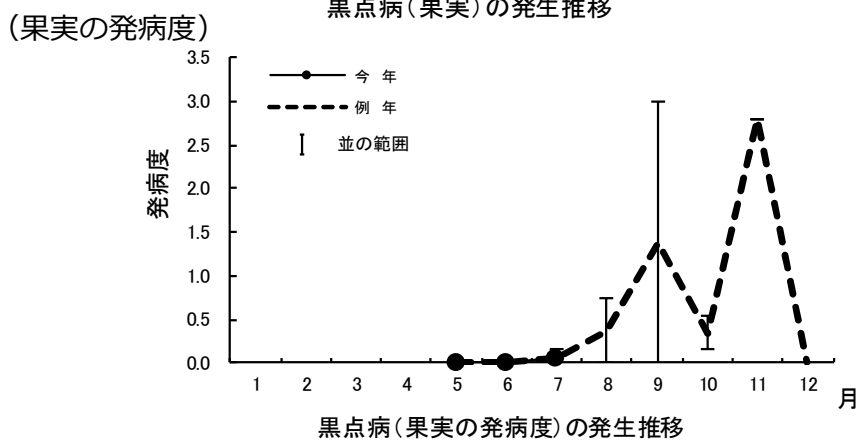
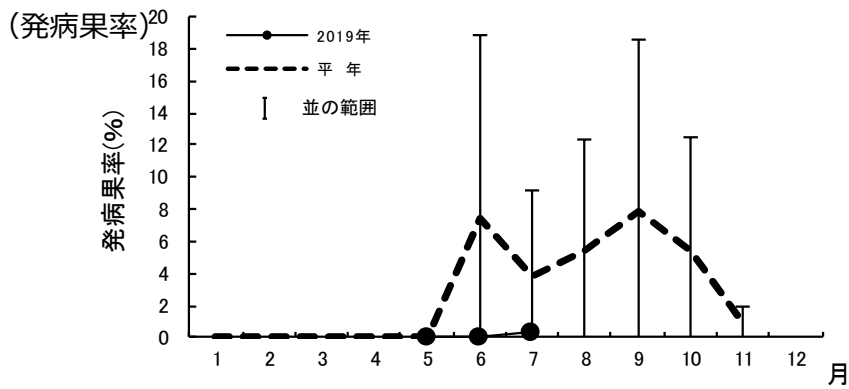


防除のポイント

- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。
- ・ 罹病枝、罹病葉を除去し、伝染源を極力少なくする。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	② 黒点病		
予報	8 月の発生量（平年比）	並	
	7 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	7 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↗）	


調査結果



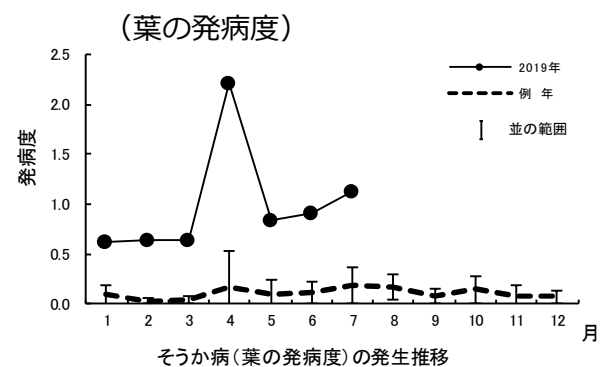
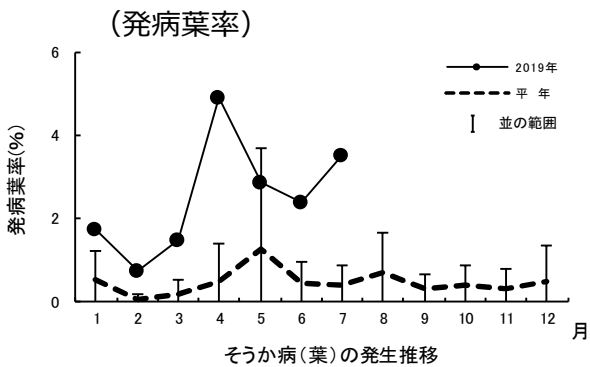
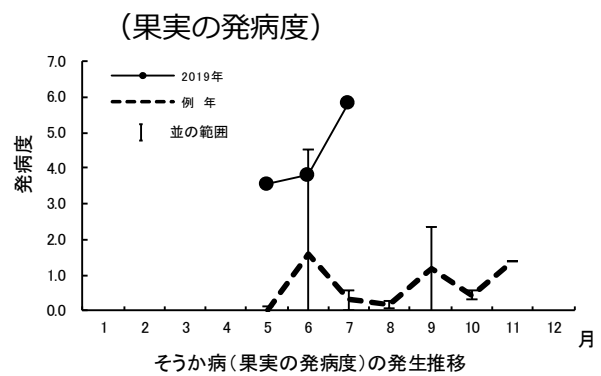
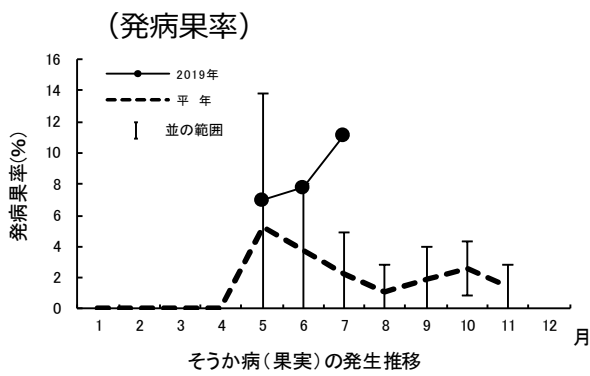
- ・ 病害虫防除員報告：中発生（本島北部）

防除のポイント

- ・ 周辺の防風樹も含め、枯れ枝は除去する。
- ・ ほ場内の通風、採光を良くするために、間伐、せん定等の管理を徹底する。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ そうか病		
予報	8 月の発生量（平年比）	やや多	
	7 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	7 月の発生量（平年比）	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果



- ・ 一部ほ場で多発した
- ・ 病害虫防除員報告：中発生（本島北部）

防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

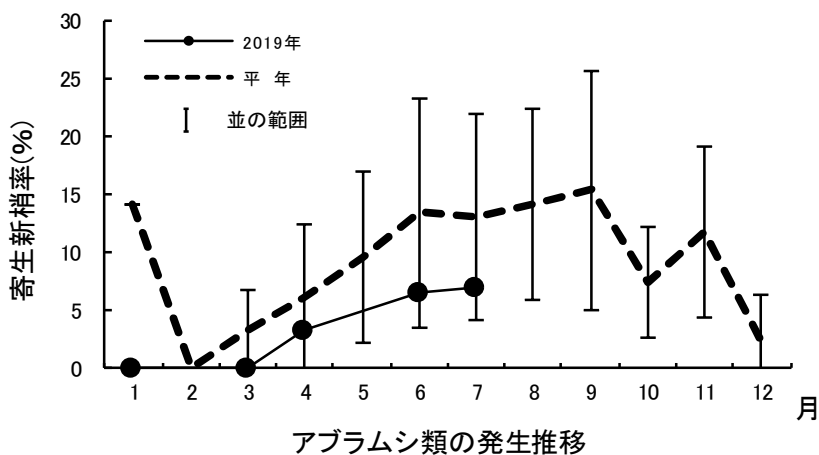
被害葉→



作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	④ アブラムシ類		
予報	8 月の発生量（平年比）	並	
	7 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	7 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↗）	



調査結果




- ・ 病害虫防除員報告：中発生（本島北部）

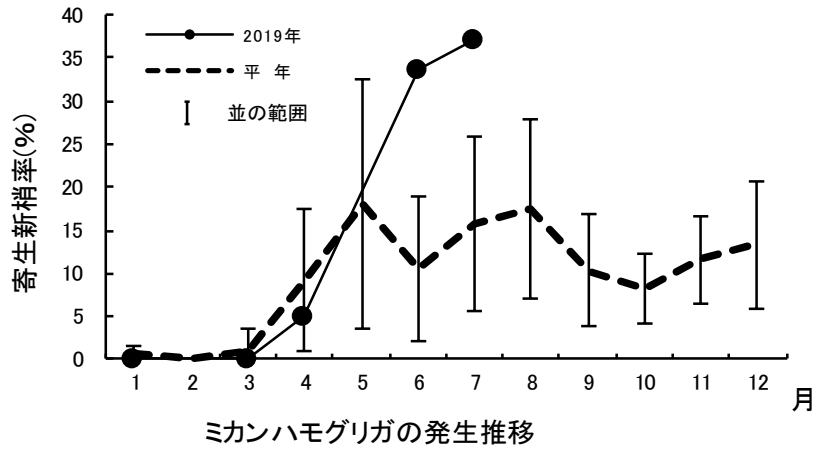
防除のポイント

- ・ テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・ 新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。




作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ミカンハモグリガ		
予報	8 月の発生量（平年比）	やや多	
	7 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	7 月の発生量（平年比）	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↗）	

調査結果

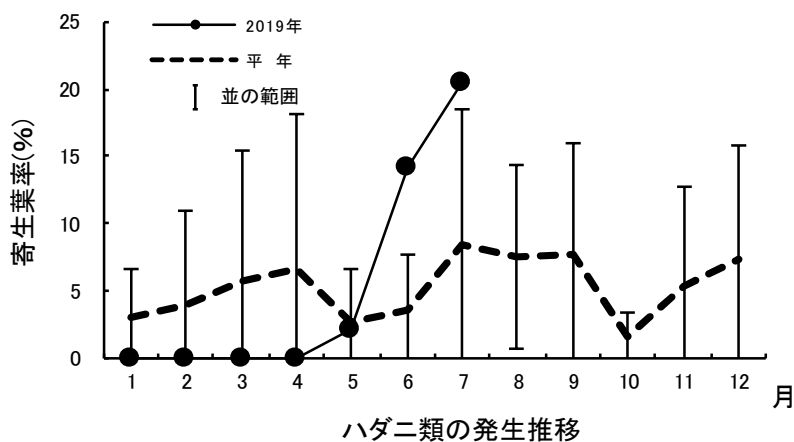


防除のポイント

- ・被害葉にかいよう病が発生しやすく、翌年の伝染源になるので除去に努める。
- ・被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑥ ハダニ類		
予報	8 月の発生量（平年比）	並	
	7 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	7 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↓）	

調査結果



- ・ 一部ほ場で多発した
- ・ 病害虫防除員報告：中発生（本島北部）

防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

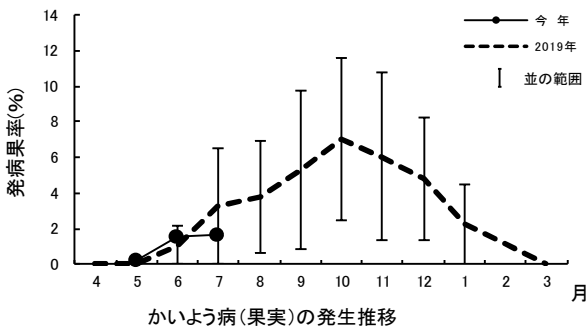


作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
予報	8 月の発生量 (平年比)	並	
	7 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	7 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

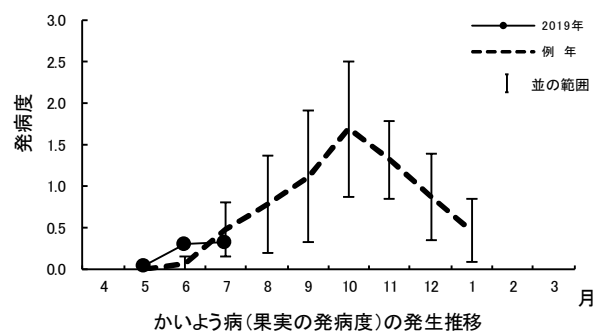


調査結果

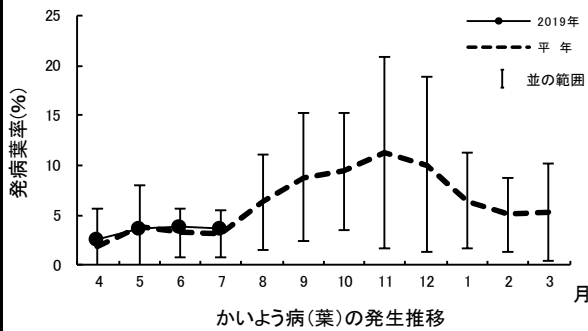
(発病果率)



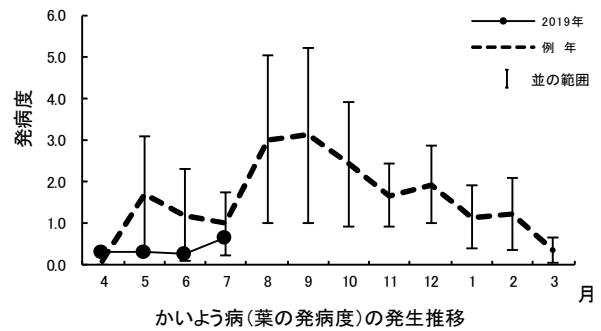
(果実の発病度)



(発病葉率)



(葉の発病度)



・ 病害虫防除員報告：中発生（本島北部）

防除のポイント

- ・ 罹病枝などの病斑が伝染源となり、台風による葉や枝の傷口（風傷）は感染を助長することから、台風前後ともに薬剤防除を行う。
- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、ミカンハモグリガ被害葉の除去に努める。

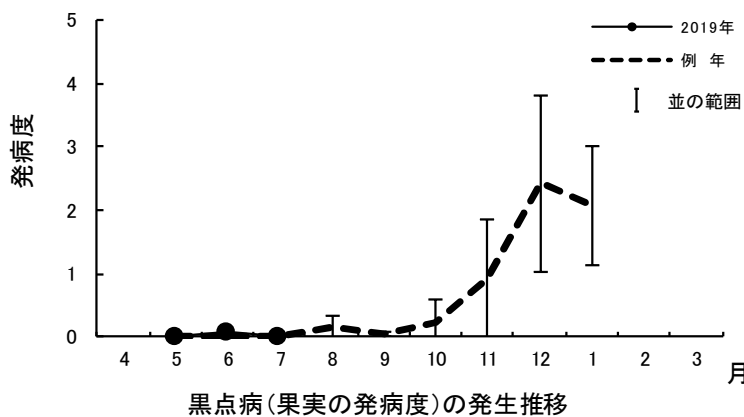
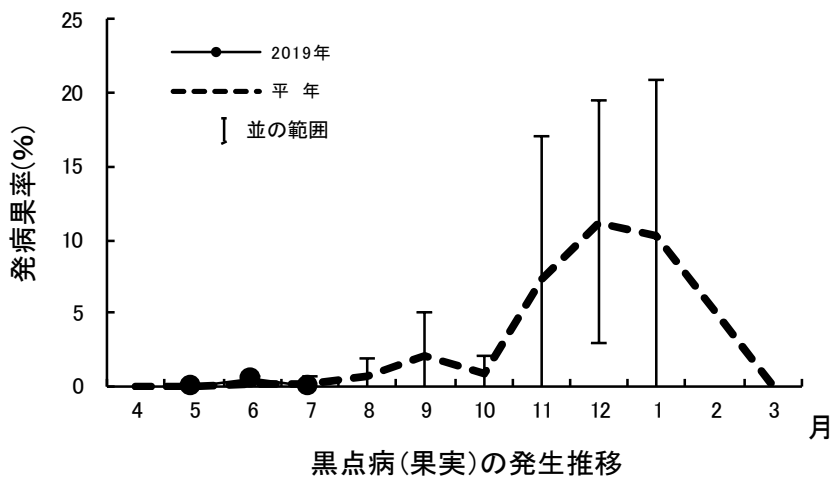
被害葉→



作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	② 黒点病		
予報	8 月の発生量 (平年比)	並	
	7 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	7 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	



調査結果



防除のポイント

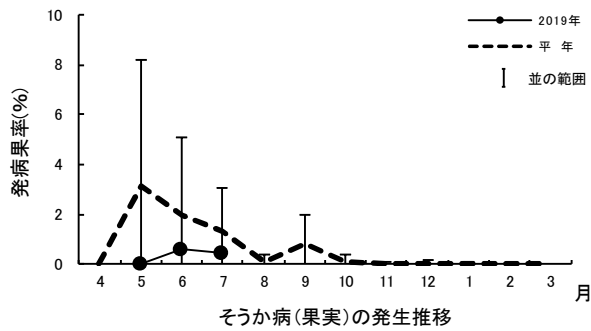
- ・周辺の防風樹も含め、枯れ枝は除去する。
- ・ほ場内の通風、採光を良くするために、間伐、せん定等の管理を徹底する。

作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ そうか病		
予報	8 月の発生量 (平年比)	並	
	7 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	7 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)	

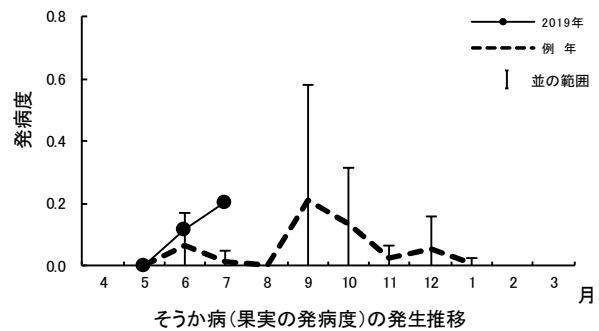


調査結果

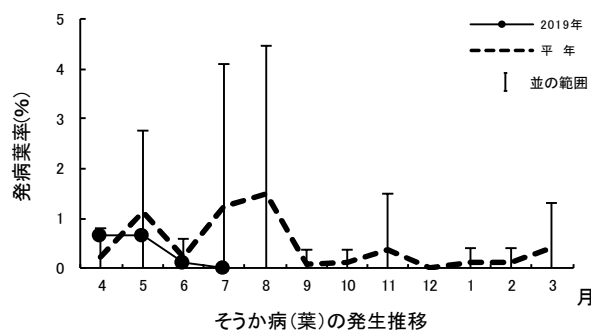
(発病果率)



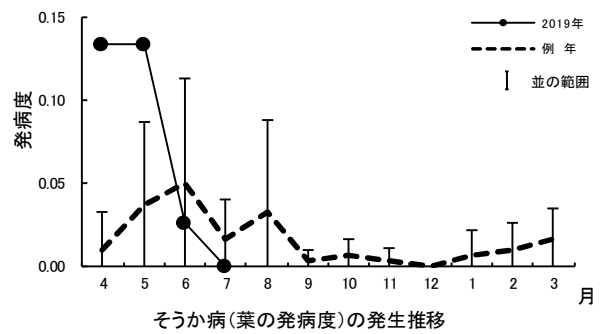
(果実の発病度)



(発病葉率)



(葉の発病度)



防除のポイント

- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

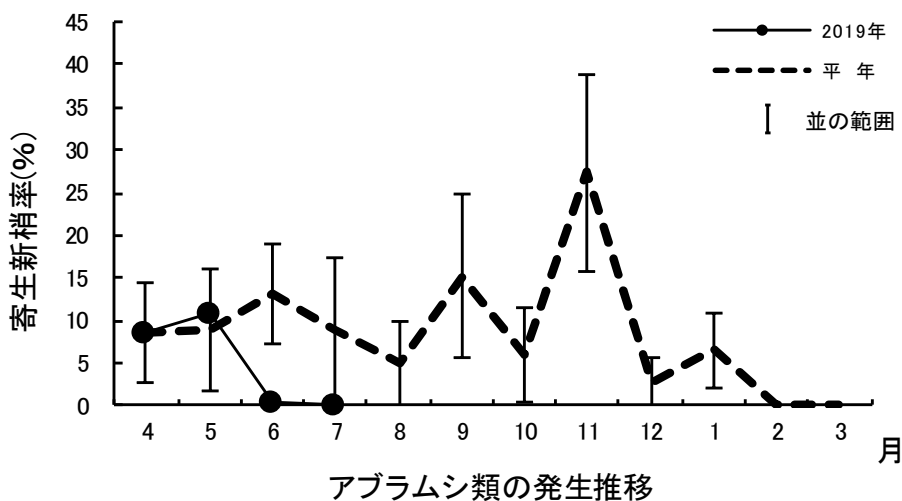


被害葉→

作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	④ アブラムシ類		
予報	8 月の発生量 (平年比)	並~やや少	
	7 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	7 月の発生量 (平年比)	(発生なし)やや少	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)	



調査結果




- ・ 病害虫防除員報告：中発生（本島北部）

防除のポイント

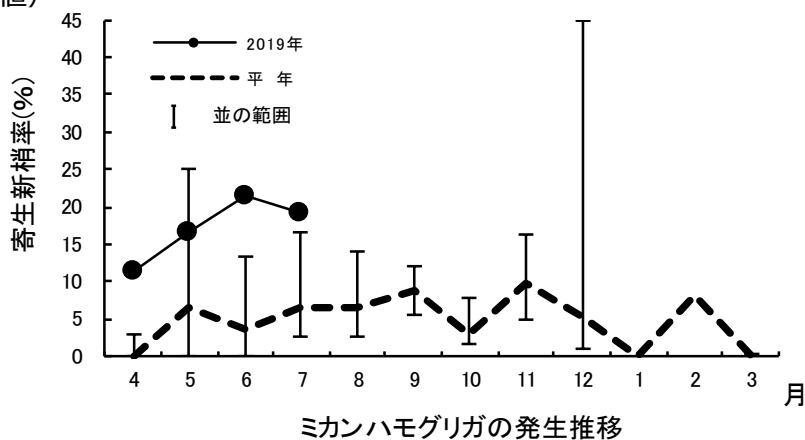
- ・ テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・ 新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。



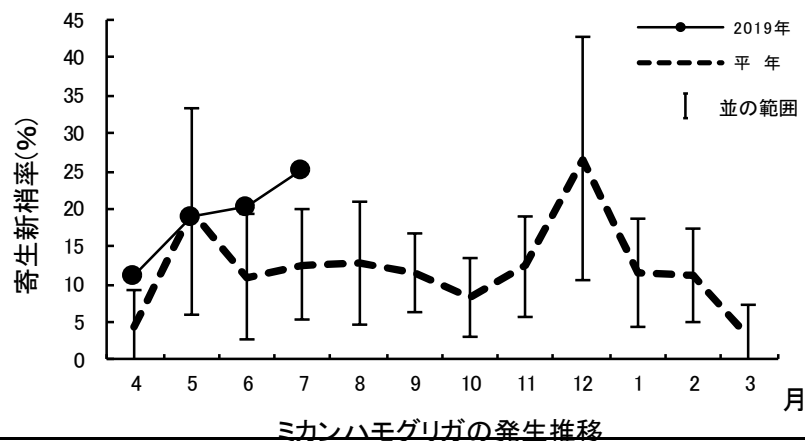
作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ミカンハモグリガ		
予報	8 月の発生量（平年比）	やや多	
	7 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	7 月の発生量（平年比）	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

(中央値)




(算術平均)

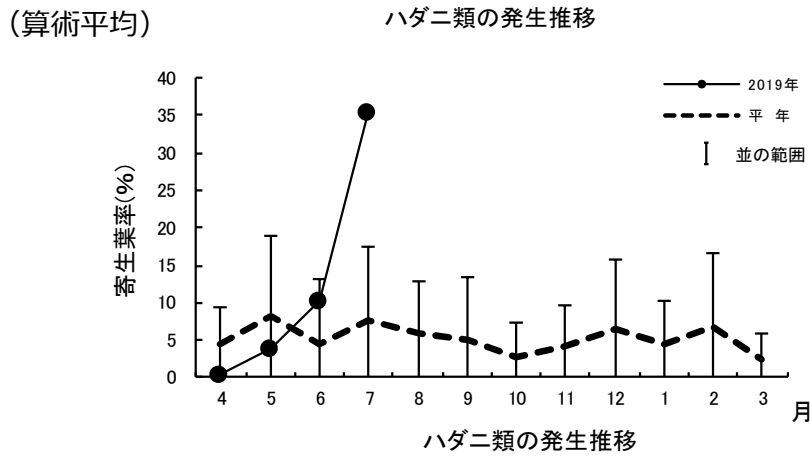
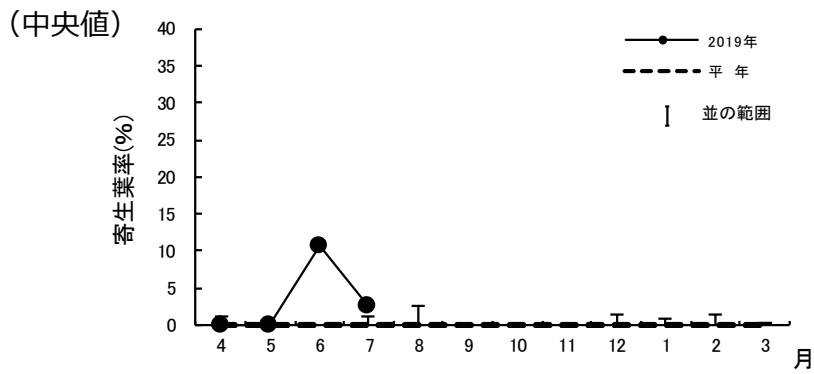


防除のポイント

- ・被害葉にかいよう病が発生しやすく、伝染源になるので除去に努める。
- ・被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑥ ハダニ類		
予報	8 月の発生量（平年比）	並～やや多	
	7 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	7 月の発生量（平年比）	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↓）	

調査結果




- ・ 一部ほ場で多発生していた
- ・ 病害虫防除員報告：中発生（本島北部）

防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



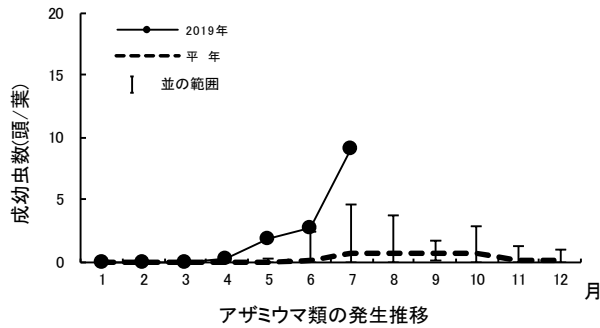
ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
予報	8 月の発生量 (平年比)	やや多	
	7 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	7 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	トラップ誘殺虫数が平年並 平年の発生量の推移 (↑)	

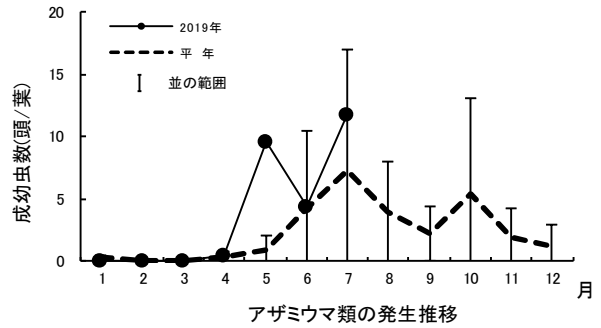
調査結果

(見取り調査)

〈中央値〉

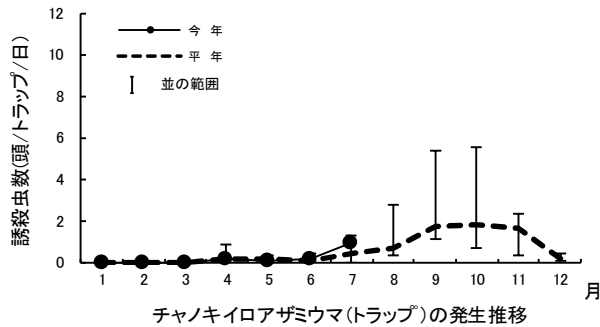


〈算術平均値〉

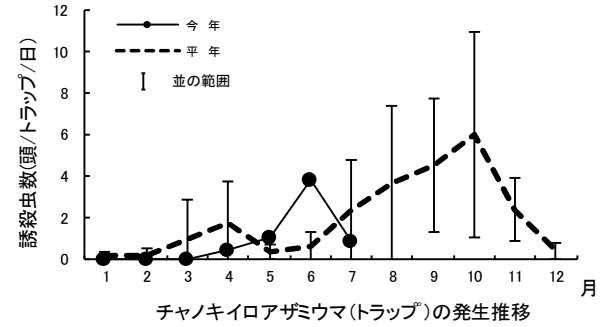


(トラップ調査)

〈中央値〉



〈算術平均値〉




防除のポイント

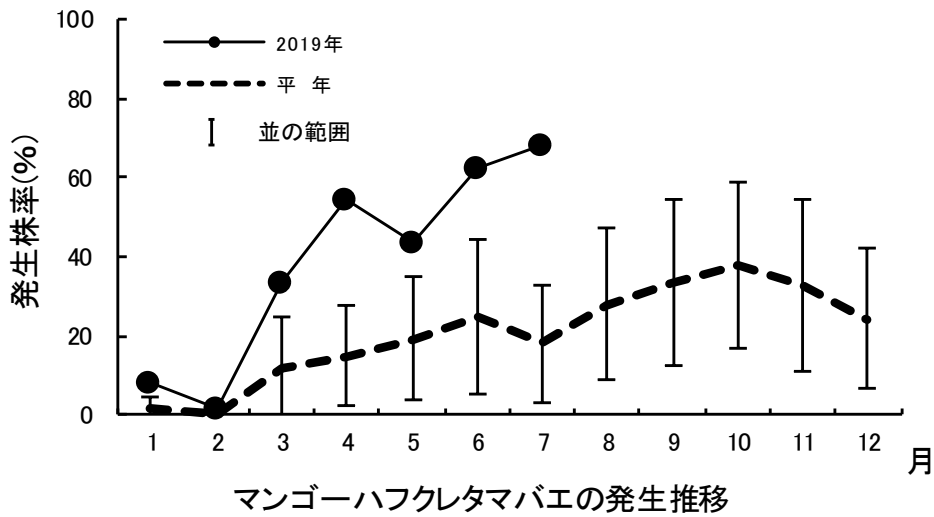
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ 収穫期に発生が多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
予報	8 月の発生量 (平年比)	やや多	
	7 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	7 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果




- ・ 被害新梢率 : 12.4%
- ・ 発生施設率 : 100% (平年41.9%)

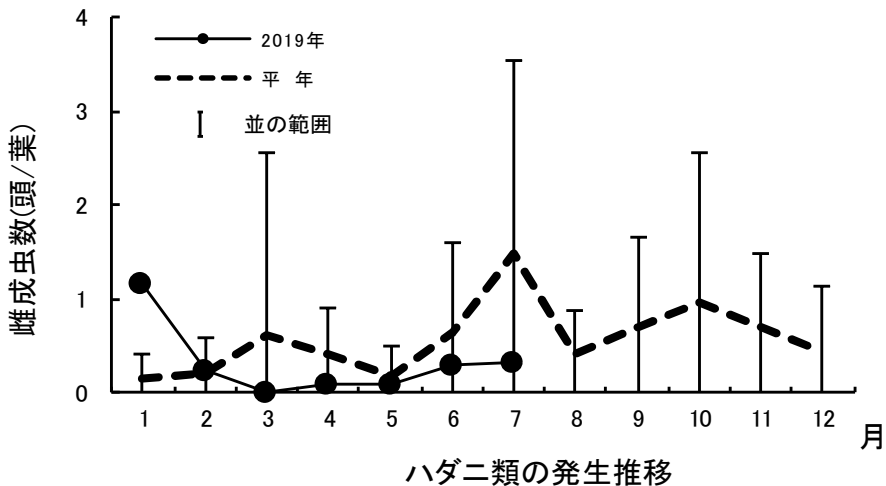
防除のポイント

- ・ 幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。



作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>
予報	8 月の発生量 (平年比)	並	
	7 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	7 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果




- ・ 発生種：シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ
- ・ 発生施設率：50.0% (平年54.8%)
- ・ 新梢での寄生雌成虫数：0.1頭以下 (発生種：シュレイツメハダニ)

防除のポイント

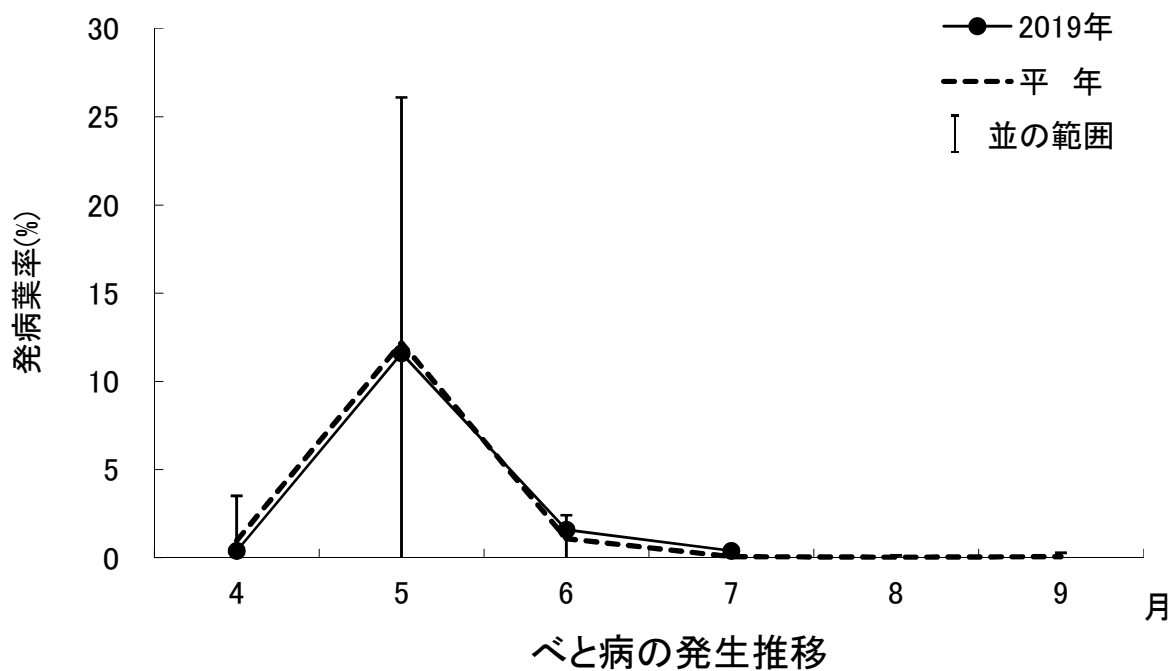
- ・ 収穫終了後の防除を徹底する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症

作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	① ベと病		
予報	8 月の発生量 (平年比)	並	
	7 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	7 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果



・一部ほ場で発生した。

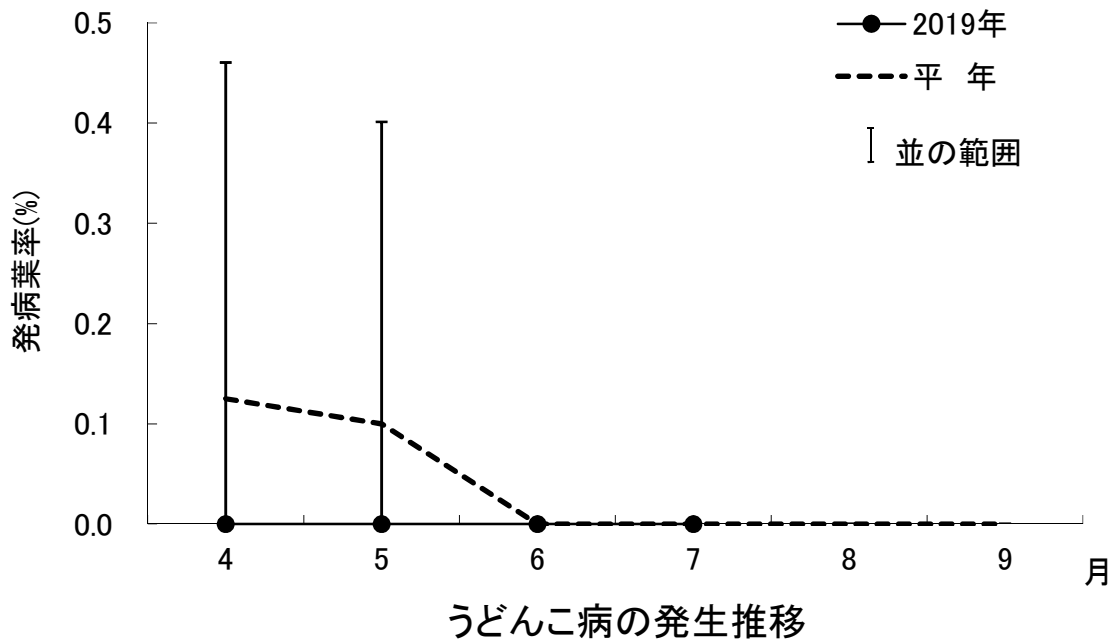
防除のポイント

- ・ 気温が10～25℃で多湿条件下で発生しやすい。
- ・ 老化した葉を除去し、採光・通風を良くする。
- ・ 適正な施肥管理を行う。




作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	② うどんこ病		
予報	8 月の発生量 (平年比)	並	
	7 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	7 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

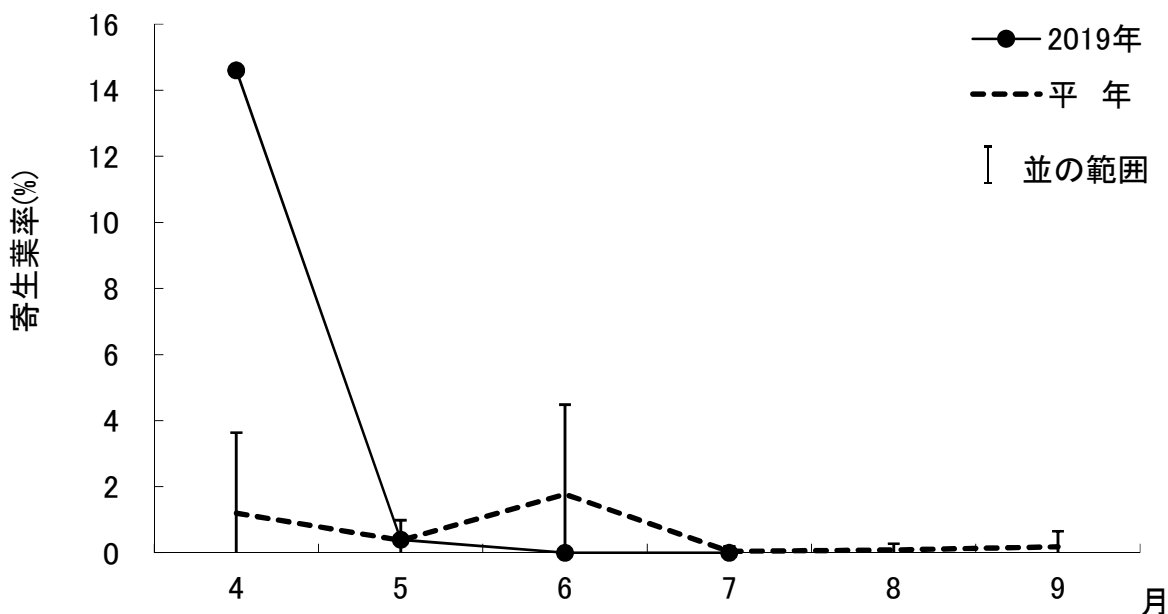


防除のポイント

- ・ 老化した葉を除去し、採光・通風を良くする。
- ・ 窒素質肥料の多施用は避ける。
- ・ 発病初期から登録薬剤を散布する。

作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハモグリバエ類		
予報	8 月の発生量 (平年比)	並	
	7 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	7 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

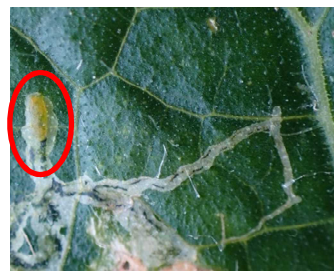


ハモグリバエ類の発生推移


・ 古葉では発生確認されている。

防除のポイント

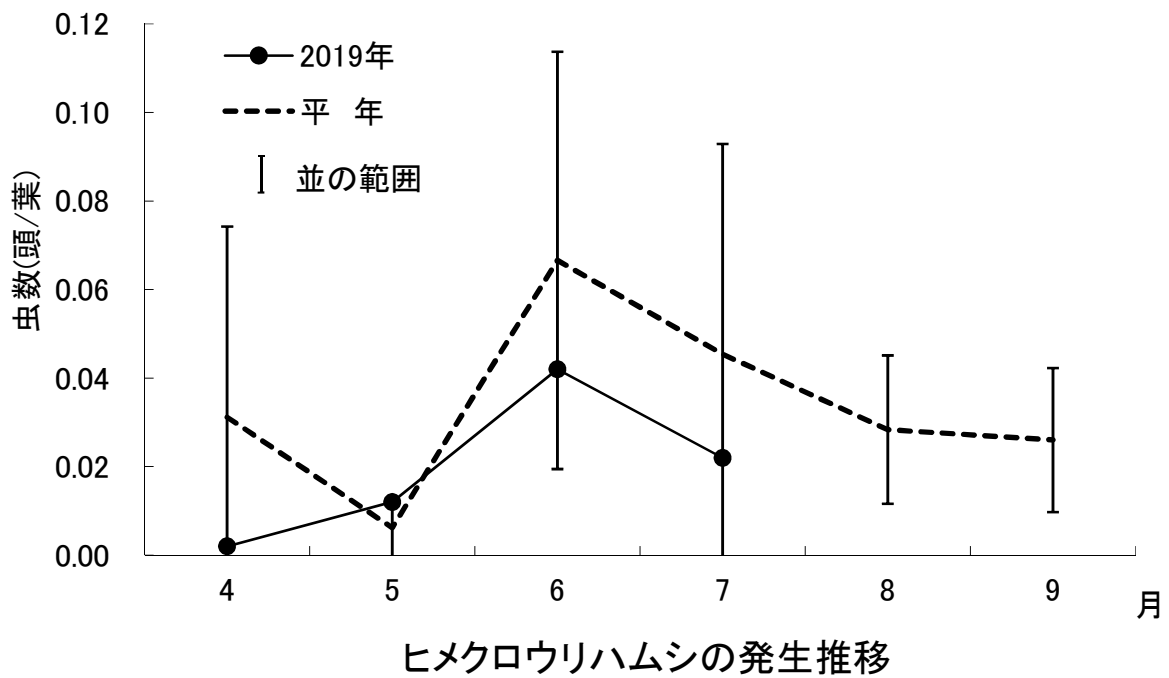
- ・ 本種の寄生痕から病害が侵入する可能性があるため、発生初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるので除去する。



幼虫


作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ヒメクロウリハムシ		
予報	8 月の発生量 (平年比)	並	
	7 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	7 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の8月の発生量	

調査結果

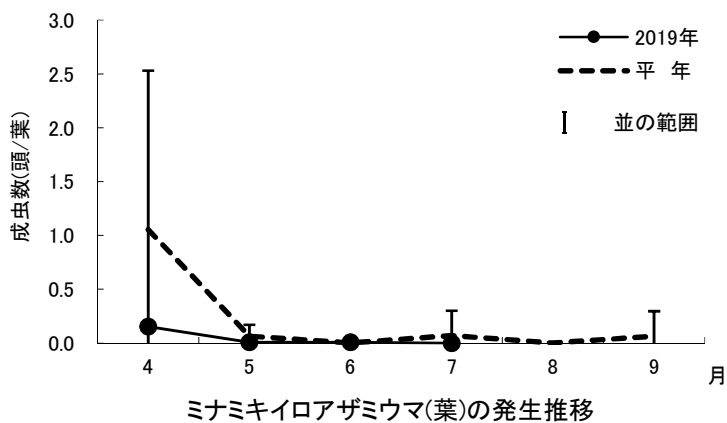
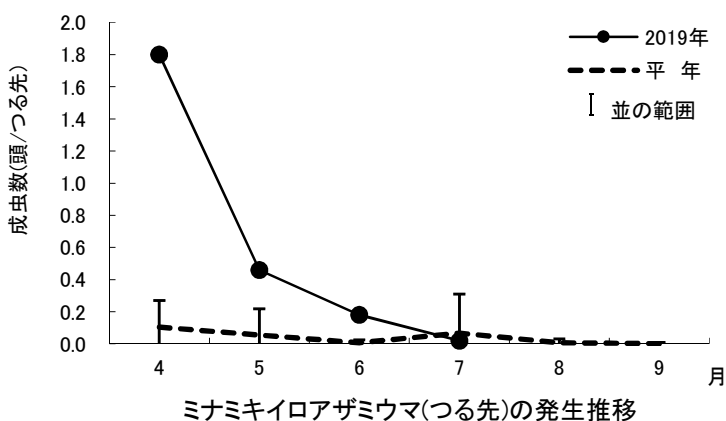


防除のポイント

- ・シルバーテープなど光反射資材を利用し、成虫の飛来防止に努める。
- ・ほ場内外のウリ科雑草は発生源になることから、根も含めて除去する。
- ・産卵防止のため、地際部をシートなどで覆う。
- ・動きの鈍い午前中に成虫を捕殺する。


作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ミナミキイロアザミウマ		
予報	8 月の発生量 (平年比)	並	
	7 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	7 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	つる先の平年の発生量の推移 (→) 葉の平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

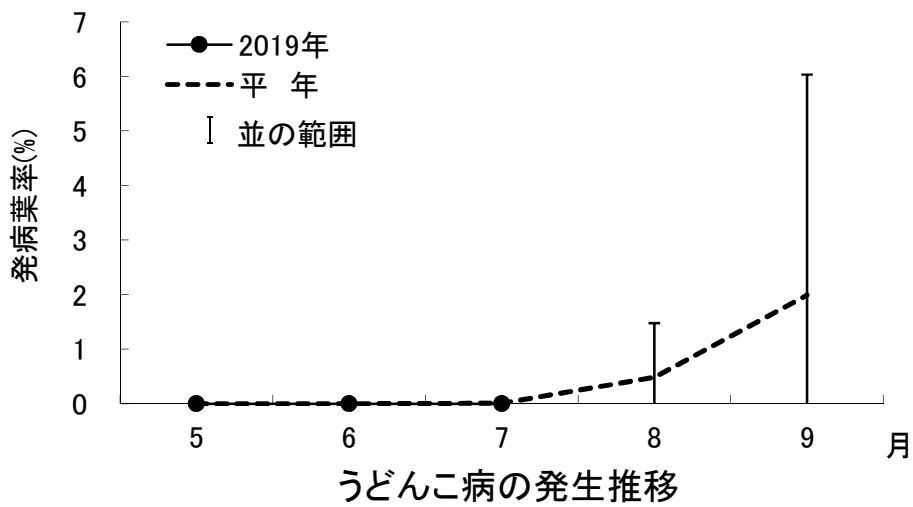


防除のポイント

- ・ 葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。
- ・ 多くの雑草に寄生するため、ほ場内外の雑草除去に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。


作物	オクラ		地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病			
予報	8 月の発生量 (平年比)	並		
	7 月からの増減傾向	↗		
予報の根拠	7 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並		
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

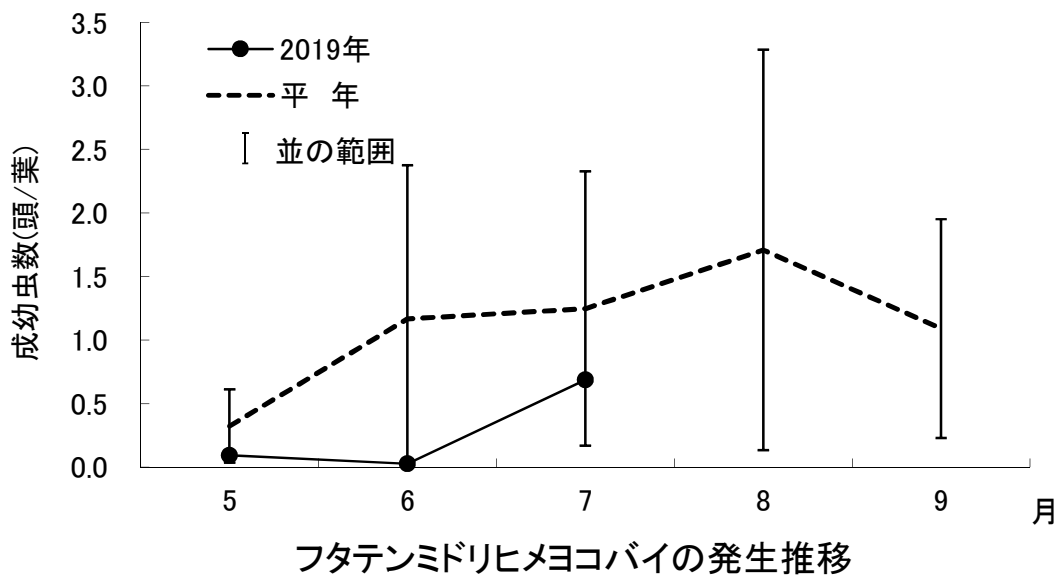


防除のポイント

- ・ 下位の罹病株や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・ 窒素過多にならないようにする。
- ・ 草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

作物	オクラ		地域	沖縄群島
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ			
予報	8 月の発生量 (平年比)	並		
	7 月からの増減傾向	↗		
予報の根拠	7 月の発生量 (平年比)	並		
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)		


調査結果



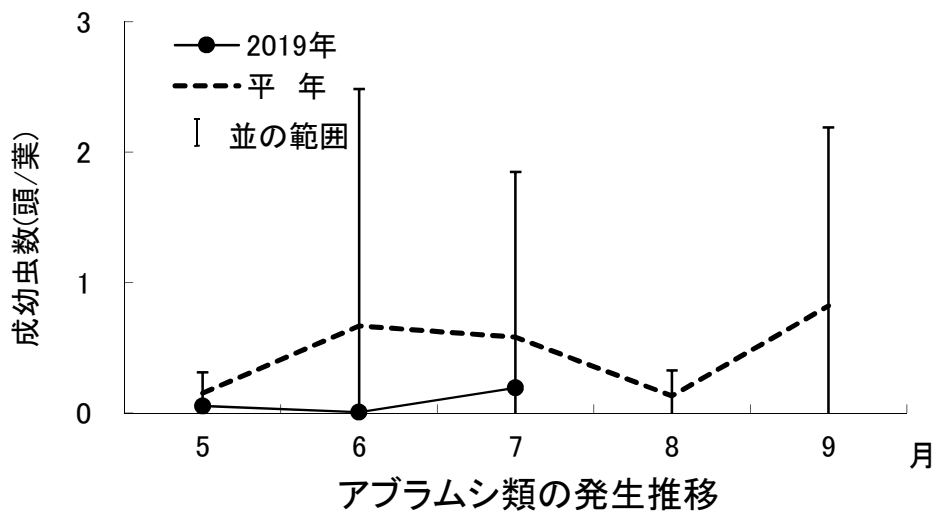
防除のポイント

- ・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。




作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
予報	8 月の発生量 (平年比)	並	
	7 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	7 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の 8 月の発生量	

調査結果

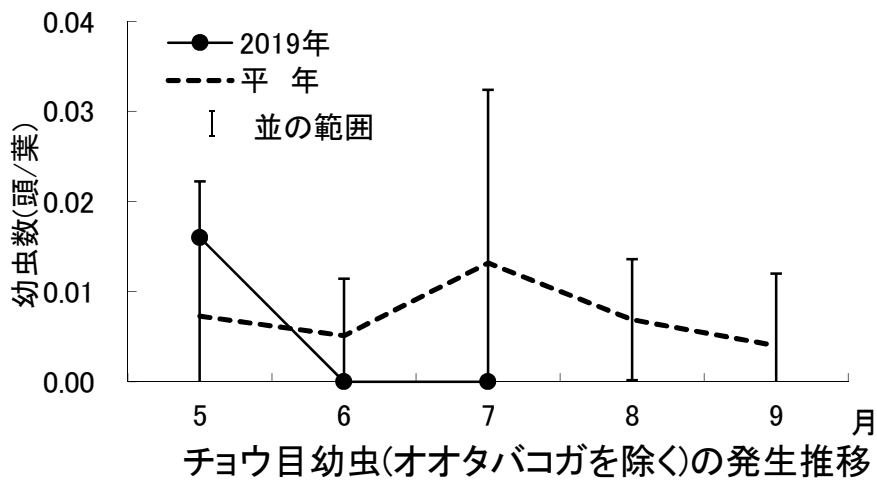


防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	④ チョウ目幼虫(オオタバコガを除く)		
予報	8 月の発生量 (平年比)	並	
	7 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	7 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果



・果実からクサオビリンガ幼虫が確認された。

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

